

会議名	令和6年度第3回坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議
開催日時	令和6年10月31日（木） 午前10時～
開催場所	坂出市役所本庁舎 2階大会議室
出席委員	長谷川 修一、國時 忠能、中井 今日子、多田 篤史、中橋 恵美子、 橋崎 正伸、林 陽子

会議の経過および発言要旨

1. 開会

2. 議題

- （1）第3期坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子について
- （2）坂出まちづくりワークショップの報告について

●会長

議題が前後するが、先に議題（2）坂出まちづくりワークショップの報告について、事務局の説明を求める。

○事務局

（資料2により説明）

●会長

ただいまの説明について、ご意見・ご質問があればお願いしたい。

●全委員

とくになし。

●会長

それでは、次に議題（１）第３期坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子について事務局の説明を求める。

○事務局

（資料１により説明）

●会長

ただいまの説明について、ご意見・ご質問があればお願いしたい。

●委員

坂出を出た子どもたちが坂出に帰ってきて働きたい仕事がないというなかで、基本目標の１番に「仕事で輝ける働きたいまちをつくる」に関し、第２期計画の基本目標３の１で「企業誘致と産業振興による働く場の確保」の１番に「企業立地の促進」とあったが、今回の骨子のなかにこのキーワードがなくなっている。今回の目標のなかに企業立地の取組は盛り込まないのか。

また、基本目標１、２、３、４に横串を通すとすれば、基本目標３の「子育て世代に選ばれるまちをつくる」となった時に、子育て世代としてどこをイメージしているか、未就学の子どもがいる家庭をイメージしてその世代に選ばれるまちづくりのように感じられるが、実際には小学校を出るくらいまでは家庭で関わる機会も多い。

30代後半で出産し、10年県外で生活した人にとって、親の介護と子育てを両立しやすいまちということも坂出の魅力ではないかと思う。坂出には病院が多く、親の介護、看護をしながら働けるまちということをアピールし、お年寄りを抱えた家族や世代に移住促進することを考えたらどうか。

また50代、60代の孫育て世代も含め家族ごとこちらに引き寄せることも必要で、ターゲットとして他の自治体と若い世代を引っ張り合うのは限界がある。坂出らしさを出すためには他の自治体とは違う切り口、20代、30代を呼び込もうではなく40代～60代に戻ってきてもらうという新しいアプローチを考えてはどうか。

○政策課

企業立地については、詳細の記載はないが、「地域の稼ぐ力を高める」のなかの①、②のところで、企業立地の側面を入れていく予定である。

子育てに関するご意見に関して、今年の春に移住をテーマに、若い職員や様々な方々を交えて、話あったが、その中の意見で、お子さんが生まれてきたときに、面倒を見てくれるおばあちゃんのもとに引っ越したりなどの話もあったので、頂いた意見の反映は検討していきたい。

●委員

ワークショップでの学生の意見は予算に制限がなければ私も同意見であるが、現実性の観点から精査する必要がある、大風呂敷を広げても達成できないと思う。坂出は総合病院や高校もあって、ポテンシャルが高いので、それらを活かすなかで、何ができるかを考えるべきではないか。投資や企業誘致については、具体的に私の中では見えてこない。

昨日、東京で国交省港湾局の総務課長と話したが、香川県から港湾整備に関する要求が多く上がっているとのことだが、坂出市と香川県との連携が全く感じられなかった。ニューポートプランとあるが、坂出市としての具体案を出し、県と連携して予算を引っ張ってこることが重要である。骨子には、現状あるものをどう活かしていくかということも、もう少し具体的に入れることが必要である。

○建設経済部長

港湾の部分で、番の州の埋め立て地等は全て売却が終わって、坂出港の内港側に関しても新たな事業があまり見えない状況にあるのは確かである。整備に関しては、協定上、香川県と連携して取り組むことで、進んでいるが、委員から指摘にある通り、それがまわっていくのかというと、県も高松港を主体に見られていると感じてはいるが、貴重な意見として、今後の政策に検討・対応していきたい。

●委員

2025年に向けて、高松のサンポートエリアから港湾全体における注目度も非常に大きく、県が注力していることは事実である。坂出も重要港として入っており、県に対して市としてどのようにアプローチしているかはわからないが、港湾についての具体的なビジョンがあるのであれば、一般の人にも伝わるような見え方、見せ方での発信を工夫されたらどうか。

戦略骨子の指標について、基本目標3にある「子育て世代」の定義が分からなかった。昨今の多様な家族構成や働き方などから、子育て世代イコール何十代というのではなく、

おじいちゃん、おばあちゃんが子育てする場合もある。子育て世代から選ばれるまちづくりの指標や算出は非常に難しく、画一的な算出方法では測れないと思う。

そして基本目標4の指標で、新築戸数を戸建てと限定しているのはなぜか。マンションでは測れないのか。戸建ては永住意識が高いと思うが、若い世代はマンションを転々とする志向の人が多い。戸建てに限定した根拠を教えてください。

○政策課

子育て世代の定義として、事務局としては、人口動態のところで、転出の多く谷となっているところを浅くすることが必要と考えているため、30代までの世代を想定している。先ほどのご指摘のようにもっと幅広い世代としてとらえる必要もあるかと思うので、検討させていただきたい。

戸建てに関しては、暮らしやすい・住み続けるという観点から戸建て住宅を限定としたが、共同住宅の着工数もデータとしては取れると思う。マンションを選んで住まわれる人もいるので、そこも含めて検討したい。

●委員

人口動態の中で、0から50歳の変化のデータをいただいたが、転出に関してこれだけ大きな変化があるので、指標の中の子育ての項目の中に入れてしかるべきだと思う。例えば、18歳から30歳までの減少数をわかりやすい数字で示してはどうか。

1番目の指標の中に、働く人が坂出に住むということを表現として入れておかないと、企業を誘致したけど、そこで働く人が本市に住まないということもあるので、そういった指標も必要だと思う。

日本人だけの出入りの数字は衝撃的な数字だと思う。これは絶対掴んで入れておくべきではないかと思う。

○政策課

若い世代が出ていった数字を減らした方が良いのか、戻ってきた数字を増やすのか、あるかと思うが、持ち帰って、良い表現方法がないか検討したい。

仕事をつくったところで坂出に住んでいただかないと意味がないといったご意見に関しては、概念図でも少し説明したように、仕事を選んだタイミングで坂出から転出されている方が多い現状がある中で、それだけでは住んでもらうということにはならないので、住

んでいただくためには、まちににぎわいをつくって、若い方に住んでもらえるようにということで、目標2で考えているところである。

●委員

表現しづらいのだと思う。

交通の便がよくなれば、どこからも働きに来られるようになるが、住む環境としては、例えば、出退勤のラッシュの時間帯は地元の人間は我慢しないといけない。その負担を住民に強いるのだから、それに見合うものは必要だと思う。企業誘致するにしても、インバウンドに関しても、住んでいる人間が外部の人によって何か不自由を強いられているということが絶対あると思う。その指標を小さくする必要があると思う。

そうでなければ、住みやすいまちにならない。なにがしか市民は不自由を感じている。その部分を示す指標がないとおかしい。

高松周辺には人が集まる施設をつくったので、そのサイズに合わせる道路をつくったり、地元の人に負担をかけないように動いている。

坂出市役所の職員も市内に住んでいない人もいると思う。それが問題というわけではないが、市民が働く時間帯と夜の時間帯で大きな差があって、それによって発生するストレスもあると思う。それを何か入れないと住民が住みやすいということにはならないと思う。住みやすい生活環境としてみなしてくれないのではないかな。

●会長

転入についてはどこをターゲットにするかだと思う。自分の子や孫が帰って来ると親にとってウェルカムであり、祭りの人手など地域にとってもウェルカムだと思う。日本人だけの人口動態において、男性、女性が大きく凹んでいるが、実はこれは大きなリソースととらえることはできないか、能力ある人が外でこれだけ活躍している。その人たちをトータルで子育て、教育含め呼び戻す。国際的に見るとおそらく中国の経済規模は世界一で、衝撃を与えたのは更なる拡大を目指す中国製造2025プランである。半導体を含め世界を凌駕する、例えばEVは完全に中国であり、その作戦を海ガメ作戦という。海ガメは卵を産んだところに戻って来る。そのためにシリコンバレーなどに留学生を送り込み、IT企業に勤務した後、彼らが戻って来る、そういうことをやっている。

となると坂出市の凹みは隠れたリソースかもしれない。外から新しい人を呼び込む競争をしても勝てない。どこも同じようなことをやっている。坂出で育った外で活躍している人は関係

人口であり、こういう人たちに子育てや親の介護をしながらいかに戻ってきてもらうか、ターゲットを絞ったらどうか。

○政策課

移住については政策課が移住者向けの取組みを行っているが、坂出市の認知度は低く競っていくのは難しいと思う。地元につながりのある人にアプローチすることは効果的であり、それを踏まえ第3期の指標には移住者数を入れ、地元に戻ってきてもらうということからUターン者数も含めているため、重視していきたい。

●委員

数年前の総合戦略における流入と流出のデータによると、関東、関西方面への流出含め意外に高松、丸亀への流出が流入よりも多かった。流出についてのイメージがバラバラで、ワークショップの意見のなかに「宇多津に負けない」というコメントがあり、共通認識で議論するために相手がどこなのか。たとえば、坂出から宇多津に引っ越して坂出で働いている人なのか、仕事も職場も県外の人なのか、等についての分析がされているのか知りたい。

○政策課

基本目標4で、県内への転出世帯数を指標に設定しており、その理由として、子どもが大学で県外に出るケースは転出とせず、家族全員の場合は転出としているということで考えた経緯がある。

令和5年度の転出先としては、全体では911ある中で、うち県外に出たのが463、県内は448となっている。高松や近隣の市町に出ている状況にある。

●委員

V S 高松だったか。

○政策課

補足だが、転出が多いと思ったが、世帯数で見ると転入の方が多くはなっている。

●委員

高松の人には坂出に住んだら良いとアピールをしている。そういったことをもっとしていくべきだと思う。坂出らしさが見えてこないことがひとつの課題だと思う。V S 高松で行くなら、そうと決めて、「坂出に住んで高松で働いたらええがな」そんなPRをすれば良いと思う。

●委員

林田での住宅開発が進んでいるが、是非推進してほしい。そうすると川東から坂出駅前のアクセスが必要である。先日、朝7時台のバスに乗ったが、ルートとしては昔の幹線ルートで理にかなっていると思うが利用者が少なく、林田から附属に通う学生、電車を利用する高校生が10名、市役所周辺で勤務する人が数名だった。

また別の日に車を使った際は朝7時台で駅前の駐車場はすでに一杯だったので、一旦家に帰り主人に送ってもらった。出張者のことなど考えると駐車場問題は緊急課題で、それができなければバスの便数を増やすことが必要だと思う。川東方面からのバス便は、朝7時台は2本、駅前までは車ではなくバスで行くという市民の意識改革も必要だが、人の移動時間帯にはバスの便を増やすことを検討いただきたい。

先日の同窓会で、外に出ていても親の介護で実家に戻るという友人が何人もいた。これから色々な夫婦のカタチがあると思うので、それらも考慮して人口を見ていかなければならないと感じる。

○政策部長

公共交通の問題、駅前駐車場の問題の2点のご指摘につき、数日前JR路線の維持については大きく記事に上がっていたが、都市部の路線以外は維持困難とあった。バス路線維持についてはどの地方都市も苦心している。利用者が少なく路線維持が困難であるという点に加え、現実には運転手不足という問題もある。そのなかでいかにバス路線を維持していくか、行政としても放置できない。路線の便数が減少する中であって、例えばデマンドタクシー等含めて住民の方の移動手段の確保を目指して、できる限り不便をかけないように取り組んでいる現状である。本数が多い方が良いことは間違いがないと思うが、なかなかそういった状況にない中で、引き続き、住民の方の移動手段の確保のためにいかに行政がやっていけるか検討していきたい。

駐車場についてご不便をおかけしていることは認識している。今までイオンの駐車場に停めていたが使えなくなる。駅前の再整備と同時期になるが、駐車場の確保は物理的に難しいのが現状である。駅南側の駐輪場を削減し、一定数の駐車場を確保しても不足すると思うので、引

き続き検討したい。

●委員

駐車場の料金が上がり、3日間の出張時など止められない。上限は設けないのか。

雇用の創出について、新たな雇用を生み出すことは重要であるが、三菱ケミカルのコークス部門が来年3月に4割減となり、三菱ケミカルの従業員は配置転換などで雇用確保するが、関連会社については全く見えていない。

例になるが、宇多津にさぬきマスターというレアシュガーをつくっている企業があるが、そこに我々の組合員がいたのだが、工場が閉鎖になった。そういった中で、香川県が推奨し県の特産品としてレアシュガー売り出していこうとPRのために県のホームページに載せた。売上を理由に民間企業が撤退する場合、県に歯止めを効かせてもらうよう産業課にお願いに行ったら、民間が決定したことには歯止めが効かないとのことだった。その後に手袋屋さんができ、そこでの雇用について県が協力してくれたことにより数名が就職できた。こういったフォローが坂出市としてできるならば、安心・安全な雇用確保につながる。香川県は自ら誘致した企業については雇用についても関わって、そういう斡旋活動も行っている。坂出市はどうか。

○建設経済部長

先日、坂出市は労働局と連携してやっていこうということで、雇用に関する協定書を結んだ。そのなかでお互いに協力して、雇用の確保に向け、再雇用や新卒の採用、同じところで働き続けるのではなくステップアップ、キャリアアップなども考慮し、雇用や就職を支援していきたい。

●委員

坂出市への転入、居住について、我々百十四銀行行員は転勤族で東京、大阪、神戸などどこに行くか分からない。百十四銀行の行員については坂出市に住んでいる人は多い。坂出にゆかりのない人が坂出にマンションを購入して住んでいるケースも多く、理由を聞くと「帰って来るのに便利」と言う。坂出駅で神戸支店の行員と会ったが、私は仕事が終わってこれからマリナライナーで帰宅するところ、彼は神戸から坂出の自宅に帰宅するところだった。坂出市が言うところの「交通網の拠点性」は転勤族には訴求力がある。私自身、高松の仏生山に住んでいるが、坂出にマンションを買っておけば良かったと思うこともある。今も高松から琴電経由で仏生山の通勤は少々しんどい。先ほどの議論を通じ、この点の訴求はあるかと思う。

それからもう1点、企業誘致について。基本目標1の指標「製造品出荷額」について坂出は県No. 1（四国でも3，4位）の工業都市であるが、一方で商業をどうするかという問題があるように思う。商工業につきどういう立地でどういう業種を誘致するかについて市として具体的なイメージを持ち、包括連携協定に基づき情報共有いただきたい。例えば飲食店の出店要望など、どうやって坂出市につなぐか銀行側にも分からない。連携がしっかり取れればと思いつつ、企業誘致の話を聞いていた。

○建設経済部長

今回、提案している中の概念図について、地域内経済の循環はどちらかというと、商業だと思う。そこで住みたいまちになっていくためには、日常生活ができる商店やレジャー的なところが必要と思う。

番の州企業に代表されるような大企業に関しては、お金の流れという点では市外の企業とのビジネスであり、競争力の強化という方で支援ができていけたらと思う。

雇用とのミスマッチとあるが、求職中の学生は事務職を目指している人が多い。坂出市では事務職の求人倍率は高いが、工場では人が足りない。今後、学生が望むのは、極端に言えばユーチューバーやIT関連、GXなどの脱炭素企業で、そういう産業分野に注力していかなければと考えている。

個別企業や商店が坂出市内でという要望についての銀行情報があれば、産業観光課と連携いただければやっていけると思うのでよろしくをお願いしたい。

●会長

総合戦略の全体像及び方向性については、概ねよろしいか。

資料1の3で、骨子のところで、様々具体的な意見があった。ターゲットをどこに絞るかということで、坂出らしさを出す、子育てを幅広く考える、介護までも含めて考えてはどうかなど、色々な意見をいただいたので、それをもとに、少し骨子のところで、今回意見を加えることができるところはぜひ検討してほしい。

坂出らしさというと、病院、学校、交通利便性などの強みを活かすということも、この中に入れ込んでいただけたら良いと思う。

政府の総合戦略で述べているデジタルの力を使うという視点だが、デジタル田園都市国家構想とあるので、坂出市はまさに都市の部分と田園の部分があるので、そこら辺をうまくつなぐことも坂出の1つの強みかと思う。デジタル田園都市のつながりを入れてもらえればと思う。第

2期では、魅力ある農林水産物づくりと地域ブランドの展開とあるが、田園に関わるものも入っているので、その辺もふまえて、骨子を少し見直ししてもらいたい。

今回の検討では、第3期総合戦略骨子に関しては大筋、認めてもらえるという理解でよいか。

●全委員

異議なし。

●会長

あとは具体策を見直ししてもらいたい。よろしく願いしたい。その他、意見はあるか。

●委員

第2期の方に坂出ニューポートプランの推進とあるが、この進捗や内容を知りたい。

○建設経済部参事

坂出ニューポートプランは、坂出湾の今後10年間の進め方（目標）について数年前に作成したもの。港湾関係の構造物の長寿命化、企業誘致、港湾のあり方、港湾計画の変更など、今後10年間で坂出港の目指す方向性を定めたもので、今後の港湾のあり方を国交省関係者、港湾従事者の皆さんで考えていただいているところである。

●委員

このプランは既にスタートしているということか。優先順位もあると思うが、まちの活性化、駅を中心とした人流創出と言っている中で、日清製粉跡地、どんつきまでのあの辺りの計画についての動きや具体的なものはニューポートプランの範疇にインクルードされるのか。

○建設経済部参事

ニューポートプラン作成時は日清製粉撤退の話はなかったので、プランには含まれないが、東運河等の防災対策の方向性は盛り込んでいる。日清製粉の話ができた時には入っていないが、賑わい創出は盛り込んでいる。

●委員

余談になるかもしれないが、瀬戸内海のリソースを活かしたビジネス、個人・会社組織の別はあろうが、旅行業であるとか、船舶・クルーザーやユースプラン、これらと合わせ陸での大小のプランニングを行う事業主が非常に増えている。そういった人たちに拠点を構えてもらう発信をすればあのスペースで十分と思うが、「ニュービジネスとしてのニューポート」という打ち出し方も可能だと思う。

坂出を外から見ている人から聞かれたことがあり、私がこのプランをよく分からなかったので迂闊なことは言えないと思ったが、今後未だ決まっていけないのであれば、外部の意見を集約する機会があれば良いと思う。

●委員

夏休みに、海上保安庁にお願いし、1日3船20人（計60名）の募集をするとすぐに一杯になる。クルーズをすることを夏休みの宿題にしたいという方がたくさんいて、それで振興協会としては、港をPRさせてもらっている。

運河地区に関しては、埋め立て論と今のまま残す＝クルーズの出発地点となるので必要だから残すという2つの案がある。緑地帯とあわせて考えてほしいと思っている。

ただし、市の全体のビジョンの中にもそれらは含まれるので、そこも含めて検討してほしいと思っている。

3. 閉会

○事務局

以上で、坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議を終了する。